

日本の「老舗企業」 全国に4万6708社

老舗企業の7割が製造・卸売・小売
目立つ醸造系業種

全国「老舗企業」分析調査(2025年)



本件照会先

新井 雄太、旭 海太郎（調査担当）
帝国データバンク
東京支社情報統括部
03-5919-9343(直通)
情報統括部:tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

発表日

2026/03/27

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

2025年12月時点で業歴100年を超える老舗企業は4万6708社。老舗出現率は3.11%となった。都道府県別にみると、京都府がトップで、山形県、新潟県が続いた。市区郡別でみると、上位10地域で、老舗出現率が10%を超えた。業種大分類別では、製造業が最も多く、次いで小売業、卸売業の順となった。業種細分類別でみると、老舗企業数で貸事務所業、老舗出現率では清酒製造業がトップ。2026年も2000社程度が新たに老舗企業に加わるとみられる。

帝国データバンクが保有する企業概要ファイル「COSMOS2」(2025年12月時点、約150万社収録)に加え、独自で収集し営業の実体が確認できた企業を基に、創業・設立から100年以上の企業を「老舗企業」と定義し、分析を行った。
創業時が元号・時代のみ判明している場合には、各元号・時代の最終年を創業年として集計した。

全国に老舗企業は 4.6 万社、老舗出現率が 3%超に

2025年12月時点で業歴100年を超える老舗企業は、4万6708社を数えた。現在のNHKがラジオ放送を開始し、普通選挙法が公布された1925年(大正14年)に創業した約1900社が老舗企業に加わった。全国における老舗企業の割合を指す「老舗出現率」は3.11%と、初めて3%を超えた。

老舗企業数 推移



老舗企業約4.6万社のうち、業歴200年以上が1836社、300年以上が905社、500年以上が47社となり、そのうち、日本最古の企業として有名な金剛組(578年創業、大阪府)を筆頭に「業歴1000年企業」は11社を数えた。元号別にみると、江戸幕府が開府した1603年以前に創業した企業は178社で、江戸時代に創業した企業は3480社、明治時代は2万2070社、大正時代が2万980社となっている。

老舗企業 時代／業歴別

時代別

業歴別



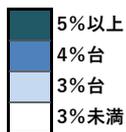
京都府が 5.45% でトップ、全体を上回るのは 23 府県

全国の老舗出現率を都道府県別にみると、京都府が 5.45% でトップだった。古都として栄え、第二次世界大戦中の被害が比較的小さかったことが老舗企業の存続につながっていると考えられる。「酒どころ」の山形県、新潟県が続き、3 府県が 5% を上回った。そのほか、日本海側の地域を中心に 5 県が 4% を上回り、全体の 3.11% を上回ったのは 23 府県だった。

一方で、大都市圏は低水準となり、東京都は 2.32%、大阪府は 2.30%、愛知県は 2.95% だった。そのほか、九州エリアでは軒並み老舗出現率は低く、沖縄県は 0.17% にとどまる。なお、同県内の老舗で最も多い業種は「蒸留酒・混成酒製造」の 11 社で、泡盛の製造を手がけている。

また、老舗出現率を市区郡別でみると、10% 超の地域が 10 地域あった。そのうち、19.20% と突出して高かった京都市東山区など、4 地域が京都市内だった。そのほか、千葉県からは漁業が盛んで歴史的な朝市がある勝浦市と、しょう油の名産地である銚子市が上位に入った。

老舗出現率 都道府県別 / 市区郡別上位 10 地域



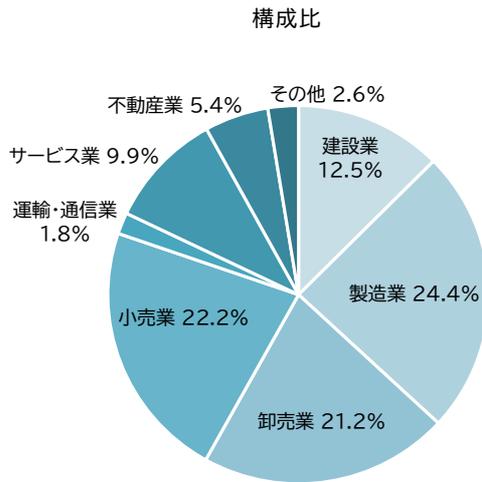
順位	都道府県	老舗出現率	順位	市区郡	老舗出現率
1	京都府	5.45%	1	京都市東山区	19.20%
2	山形県	5.44%	2	京都市上京区	14.34%
3	新潟県	5.07%	3	千葉県勝浦市	14.05%
4	島根県	4.59%	4	京都市下京区	13.59%
5	福井県	4.56%	5	新潟県加茂市	13.20%
	⋮		6	京都市中京区	12.48%
43	福岡県	1.82%	7	兵庫県美方郡	10.40%
44	鹿児島県	1.69%	8	山梨県西八代郡	10.31%
45	神奈川県	1.63%	9	千葉県銚子市	10.28%
46	宮崎県	1.56%	10	山形県南陽市	10.02%
47	沖縄県	0.17%			

老舗企業の 7 割が製造・卸売・小売 清酒製造業が 9 割超

判明している現在の業種別にみると、最も多いのは製造業で老舗企業全体の 24.4% を占めた。次いで、小売業(22.2%)、卸売業(21.2%)となり、7 割近くを占めている。企業全体では建設業やサービス業が多く、老舗企業は製造・卸売・小売が多いことがわかる。

また、業種別の老舗出現率は、製造業が 6.60% でトップとなり、小売業(5.82%)、卸売業(5.50%)が続いた。そのほかの業種は 2% 台以下であり、老舗出現率においても製造・卸売・小売が占める割合は高い。

老舗企業 業種大分類



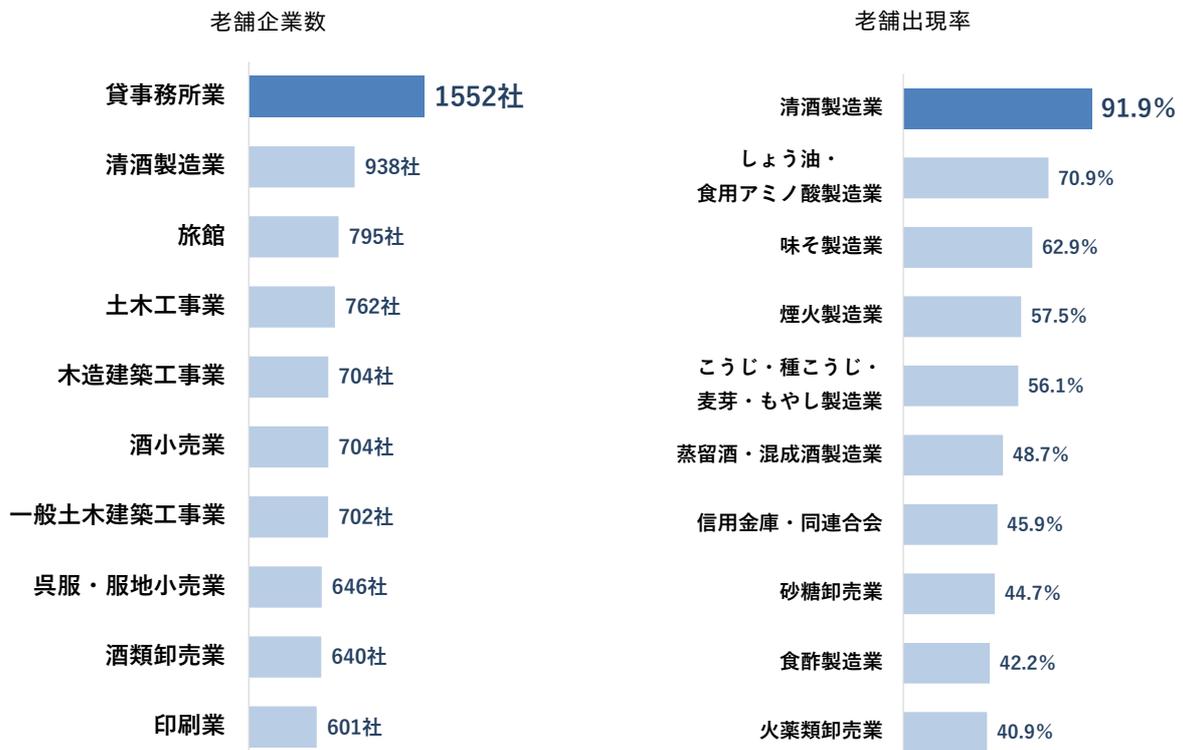
老舗出現率

建設業	1.24%
製造業	6.60%
卸売業	5.50%
小売業	5.82%
運輸・通信業	1.59%
サービス業	1.01%
不動産業	2.15%
その他	2.61%

業種細分類別では、老舗企業数は貸事務所業が 1552 社でトップ。古くから保有する不動産を活用し、オフィスビルを建てるなどして業種転換したケースが多く、安定した資産を保有する老舗企業の強みが表れているとみられる。次いで、清酒製造業が 938 社、旅館が 795 社で続いた。

老舗出現率でみると、清酒製造業が 91.9%と 9 割を超えた。そのほか、しょう油・食用アミノ酸製造業や味そ製造業など醸造系の業種が上位に来ている。また、花火や産業用の火薬を取り扱う煙火製造業や火薬類卸売業の老舗企業割合が高い。

老舗企業 業種細分類別上位 10 業種

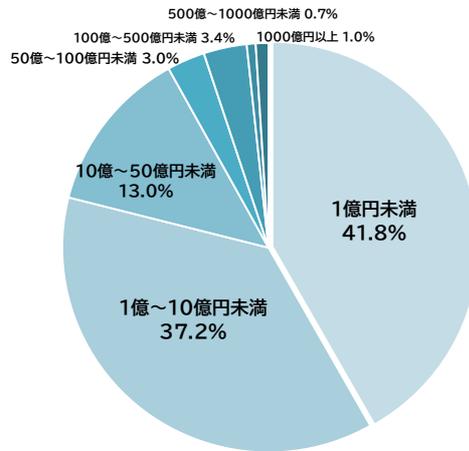


10 億円未満が 8 割 売上高 1000 億円企業の 2 割が老舗

売上高が判明している老舗企業を売上規模別にみると、「1 億円未満」が 41.8%、「1 億～10 億円未満」が 37.2%と、10 億円未満が約 8 割を占める。規模は小さくとも着実に長く事業を続けているケースが大半を占めた。

一方で、売上高の区分が大きくなるほど老舗出現率は高い。売上高「1000 億円以上」は 1.0%だが、全国にある売上高 1000 億円以上の企業のうち、老舗企業が占める割合は 19.4%となっている。

老舗企業 売上高構成比



まとめ

業歴 100 年を超える老舗企業は 4 万 6708 社となり、老舗出現率は初めて 3%を超えた。老舗企業の 9 割が明治・大正時代に創業・設立した企業で、江戸時代以前に創業した企業は約 3600 社に限られる。

2025 年は 142 社(負債 1000 万円以上)の老舗企業が倒産している。価格転嫁が進まない企業やガバナンスの欠如が発覚した企業の倒産があった。老舗企業を含む業歴 30 年以上の倒産件数は過去 10 年で最多の 3263 件となった。資金繰りに課題を抱えている企業数は決して少なくない。

長く事業を続けるには、時代のニーズを的確に捉え、製品開発や新技術の導入、販売経路の開拓など新たなことに取り組み続けなければならない。日本の老舗企業は、海外の経営者が学びに来日するほど注目されており、災害や戦争など危機的状況を乗り越えてきた老舗企業から学べることは多い。2026 年に創業 100 年を迎える企業は 2000 社程度あるとみられ、今後も老舗出現率は高まる見通しである。